

ヒロサキノサキ

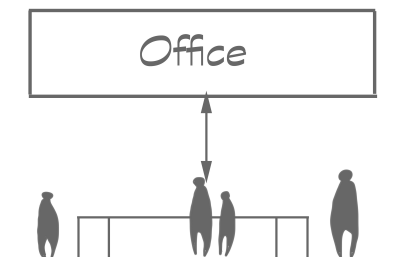
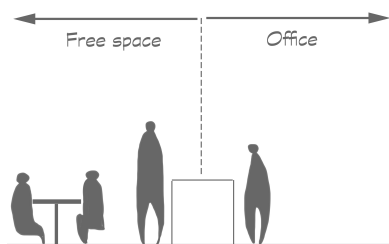
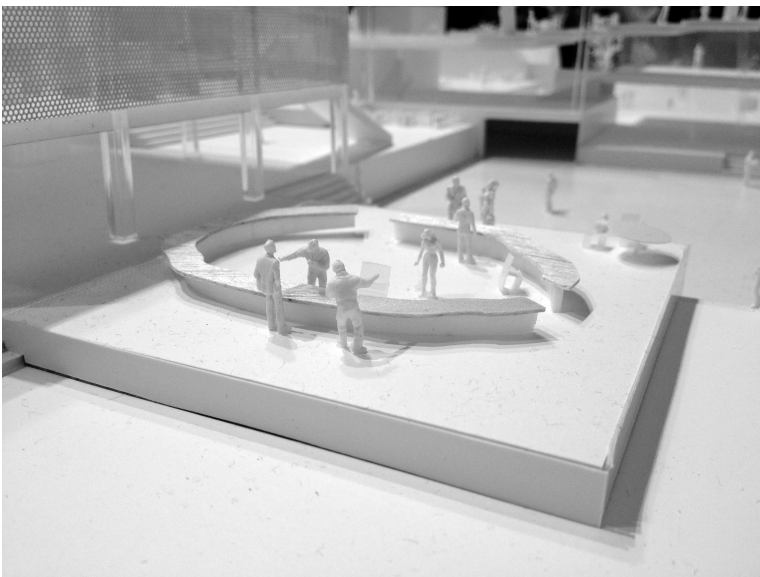
- 弘前市役所の再構築 -

江戸時代から続く歴史ある弘前公園に隣接して建てられた弘前市役所。当時の市長、藤森市長の特命で、前川國男に設計依頼をしてつくられた市庁舎である。弘前公園の正門、「追手門」のすぐそばに建設するということで、公園と市庁舎という市の中核を確立する目的であった。本丸と市街をつなぐ、「追手門」。行政と弘前市民をつなぐ「弘前市役所」。この2つの関連からコンセプト繋がりが理解できる。

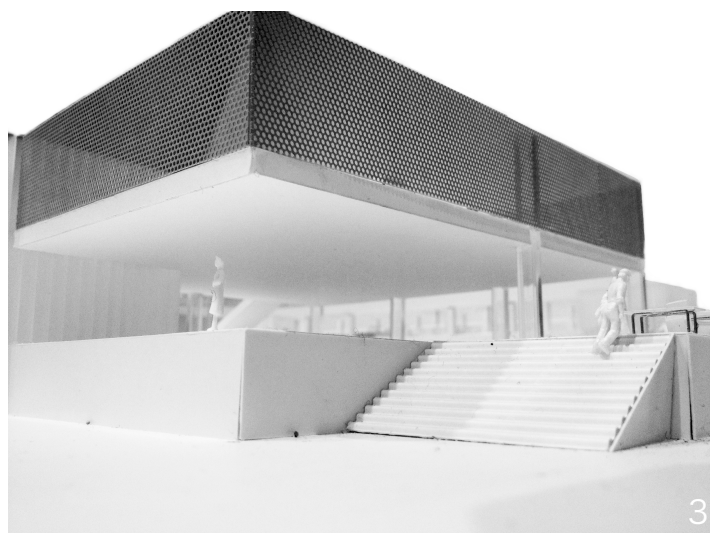
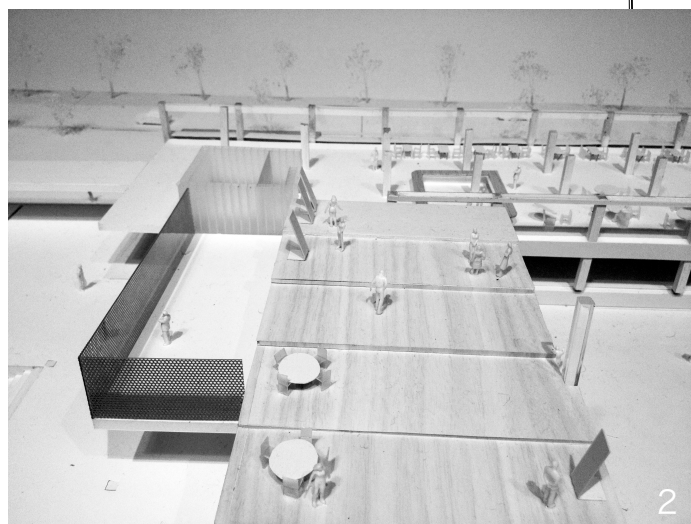
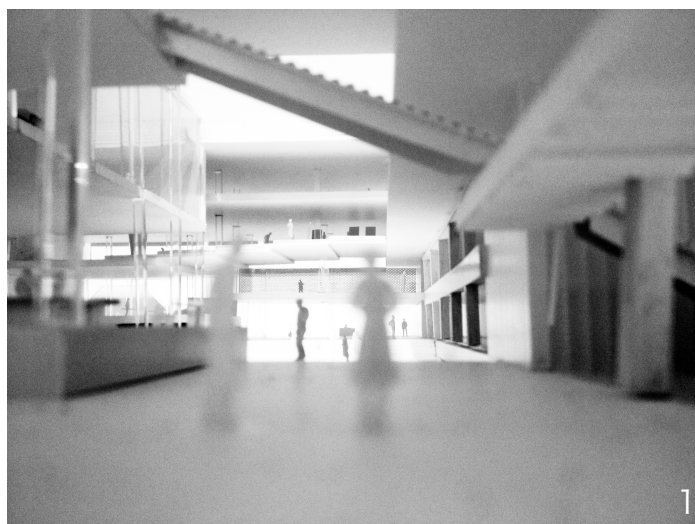
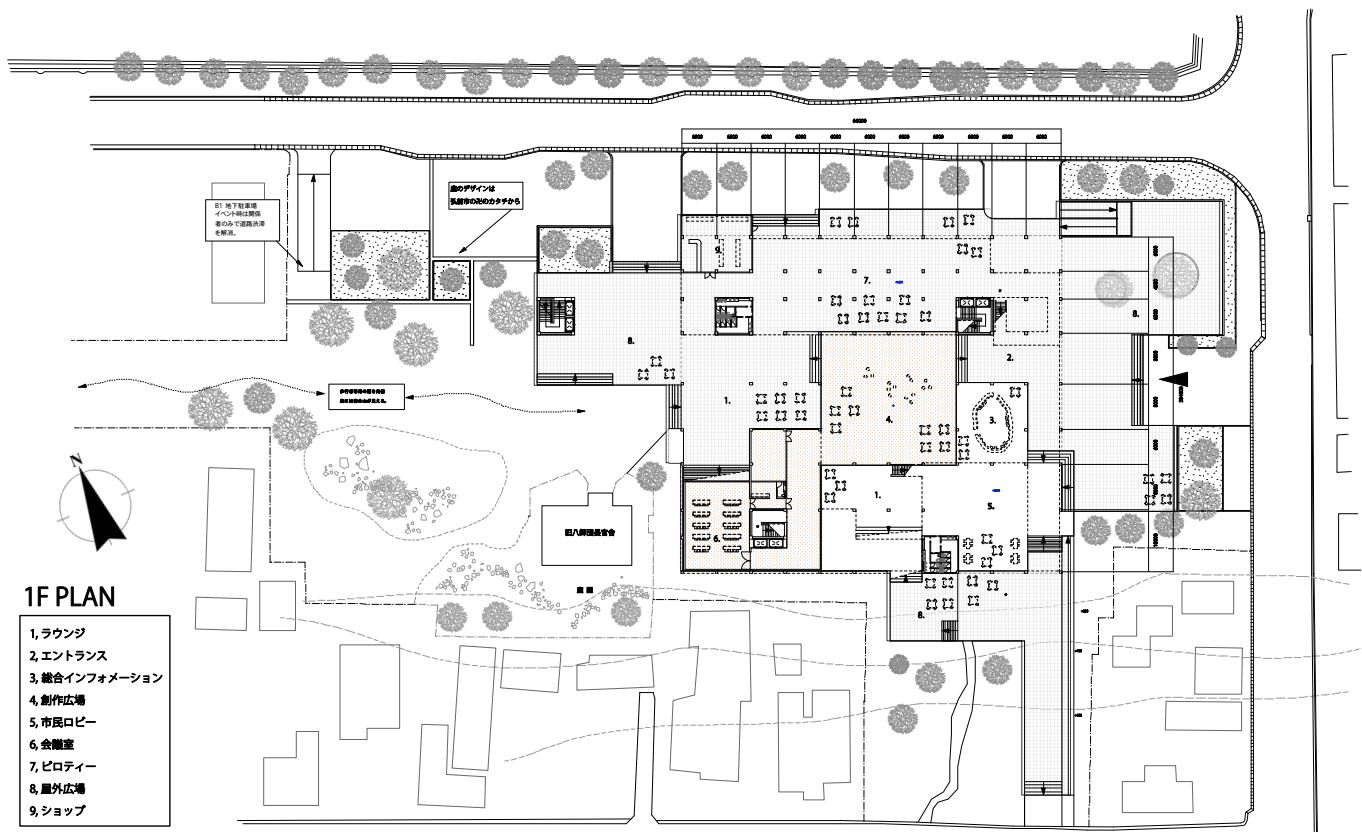
「追手門に負けない市庁舎を…」この一言で始まった弘前市役所の計画は1958年に完成した。東京タワーや香川県市庁舎と同時期に完成したこの市庁舎は当時の弘前市の革新的建築として注目を集めた。弘前城本丸や、旧八師団長舎、旧弘前市立図書館、青森銀行記念館といった、歴史的建造物が数多く存在する市の中心にモダニズム建築が新たに誕生した。



佐藤光将
建築設計計画研究室



市民と行政、そして観光客の活動が溢れ出て、街の中核をもう一度、
見直す目的で市役所を再構築する計画をした。



1、正面エントランス

市役所の街路に沿っていくと正面エントランスに流れるように入れる。エントランスからは各フロアの協働空間が溢れる様子が体感できる。また、市役所、旧第八師団長舎、津軽の富士と言われる岩木山がエントランスから風景の連続がレイヤー状に続くようになっている。

2、丘のギャラリー

市民の日常的な活動記録や地域の情報をいち早く知る事が出来る場となっている。緩い階段となっているのでゆっくり鑑賞もでき、話し合える場となっている。

3、情報アーカイブ

地域の情報元。本や冊子といった他に電子庫として使われる。情報が発信されるとここでいち早く情報を入手できる。